

# 数学科 中学校 1年

単元名 資料の活用  
啓林館「未来へひろがる数学1」  
(移行措置)

## 単元の流れ (全8時間)

【第1次】 度数分布表

### 主な学習内容

◇第1時 クラスの体力測定の記録から度数分布表を作成し、記録の整理方法を理解する。

【第2次】 ヒストグラム

### 主な学習内容

◇第2時 度数分布表からグラフを作成する。その際、階級の幅が異なるとグラフから読み取れる傾向が異なることに気付く。

【第3次】 相対度数

### 主な学習内容

◇第3時 相対度数を求め、異なる二つ以上の資料の傾向を比較する。

【第4次】 代表値と散らばり

### 主な学習内容

◇第4、5時 平均値、階級値、中央値、最頻値、最大値と最小値の必要性和意味について理解する。

【第5次】 資料の活用 (本時)

### 主な学習内容

◇第6時 資料を整理し、傾向をとらえ、説明する。

【第6次】 近似値

### 主な学習内容

◇第7時 近似値と誤差の意味について理解する。

【第7次】 学習のまとめ

### 主な学習内容

◇第8時 章末問題を解く。

CLICK

評価問題

### 単元目標

○目的に応じて資料を収集し、表やグラフに整理し、代表値や資料の散らばりに着目してその資料の傾向を読み取る。

### 単元構成の意図

小学校算数科では、棒グラフ、折れ線グラフ及び円グラフを学習し、度数分布を表やグラフに表したり、資料の平均を調べるなどの活動を通して、統計的に考察したり表現したりすることを学習している。本単元では、これらの学習の上に立って資料の傾向をとらえ、説明することを通して、資料の傾向を読み取ることができるようになる。

### 「活用」の力を育てるポイント

- ① 目的に応じた適切で能率的な資料の集め方や合理的な処理の仕方が重要であることを理解できるようにする。
- ② 資料の傾向をとらえ、説明することを通して、資料の傾向を読み取ることができるようになる。
- ③ 問題の設定とその解決、解決方法の見直しなど、問題解決の過程を大切にすること。
- ④ 日常生活における身近な資料を用いる。



本時の流れへ

HOME